

確認テスト

所属 _____

氏名 _____

権利擁護／虐待防止 事例検討編 ④虐待している職員への指導

事例（ある職員Aさんの声）

居室訪問をしたら、便失禁をしている利用者Bさんがいました。リハビリパンツを脱ごうとしたのか両手は便まみれになっていて、服や布団、ベッドや床など本人が触ったところがベタベタに汚れていました。

急いで本人についた汚れを拭き取って着替えさせようとしてしました。その際に爪で引っかかれたり、髪の毛を引っ張られたり、時折足も出て蹴りもありましたが、それでもやり返すことはせず、Bさんの腕を掴みながら必死でなんとか陰部清拭と着替えを行いました。

ただ、「痛いって！やめて！こらっ、おとなしくしなさい！」と言いながらBさんを押さえつけているところを主任に見られてしまいました。さらにBさんの腕を押さえつけた時にBさんの腕に内出血ができてしまいました。

主任から、ヒヤリハット報告書を書くようにと言われましたが、その時に「ちゃんときちんと声かけしたの？」「本人が嫌がっているのに無理やり着替えさせたの？」「相手は認知症なんだから、少々のことは仕方ないことだからね」「〇〇さんも無理矢理やられて、きっと怖かったんだろうと思うよ。それって、専門職としてどうなの？」と責められました。

ちゃんと声かけしてからやったつもりです。それよりも主任の言うとおりにしていたら、便だらけになるのに、嫌がられたらきれいにしてあげることも着替えもしてあげずにほっとけということなのかと思ってしまいます。

そのくせ少しでも対応が遅れたら遅れたで「なぜちゃんと見なかった？」と責めるのに。

利用者さんに対する暴力は絶対いけないけれど、私たち職員のことでも大事に思ってくれるような職場じゃないとやってられないです。

1) なぜ職員Aさんは、主任さんの話を素直に聞けないのだと思いますか？ 職員Aさんの言葉の背景にある気持ちを考えてみましょう。

2) この事例から、今後職員Aさんにどのような指導をすると良いのか、自分がリーダーになったつもりで考えてみましょう。

- 1) なぜ職員 A さんは、主任さんの話を素直に聞けないのだと思いますか？ 職員 A さんの言葉の背景にある気持ちを考えてみましょう。
- 2) この事例から、今後職員 A さんにどのような指導をすると良いのか、自分がリーダーになったつもりで考えてみましょう。

1) 解答（例示）

- ・ 認知症だから介護拒否があるのは当然のことだと思っている。
- ・ 爪で引っかかれたり、髪の毛を引っ張られたりしたのに、やり返すことなく耐えた自分のことをわかって欲しい。

<解説>

認知症だから介護拒否があることは当然だという認識は正しくありません。

「やり返すことはせず」という表現から、ややもすると「やってしまう」のかという危険性が感じとれます。

2) 解答（例示）

- ・ 声をかけるだけではなく、B さんの様子に合わせて介助するようにする。
- ・ 困った時には、他の職員の応援をお願いする。
- ・ 認知症のさまざまな症状に合わせたかかわり方について、みんなで日頃から検討する。

<解説>

主任は A さんの不適切な対応がきっかけとなって、利用者 B さんの介護拒否が起きたのではないかと考えて、A さんによりよい対応方法を考えさせようと指導しています。しかし、A さんは主任から責められたと受け取ってしまったようです。介護拒否されたら、B さんにどうしたら介護を受け入れてもらえるのか、その対応方法を A さんと一緒に考えていきたいところです。

<総合解説>

この事例の職員 A さんは、B さんの腕を押さえつけているところを主任に見られたことで、自分の行為が明らかになりました。ひょっとすると人に見られることがなければ、押さえつけたことは報告せず、B さんの内出血が見つかって知らぬ存ぜぬを突き通していたかもしれません。

つまり、明らかになっていない虐待行為を日常的に行なっている可能性があることに周りの人が気づかなければ、「認知症だから仕方がない」「介護拒否があっても、綺麗にしてあげた自分はすごい」といった A さんの考えをますます助長することにもつながりかねません。